



2022年度

FY2022

決算概要



Enhancing planetary health

2023年5月11日

日揮ホールディングス株式会社

ファイナンスユニット 部長の田口です。
これから、2022年度の決算概要についてご説明させていただきます。

CONTENTS

目次

- 2022年度実績
- 2023年度予想
- 参考資料



最初に2022年度実績について、次に2023年度予想について説明させていただきます。

2022年度実績

Enhancing planetary health

ハイライト

- ・ 大型プロジェクトの順調な進捗により、売上、利益ともに業績予想を上回る着地

(億円)	予想	実績
売上高	6,000	6,068
純利益	300	306

- ・ 高水準の受注により受注残高は1兆5千億円台を確保

(億円)	FY2021	FY2022
受注残高	12,078	15,634

- ・ 2月の自己株式取得に伴う株式数減少により増配

	予想	予定
1株当たり配当金	36.0円	38.0円

最初に2022年度実績のハイライトです。

カナダのLNG、イラクの製油所ほか大型プロジェクトが順調に進み、売上高、利益ともに予想を上回る着地となりました。

受注はほぼ計画通り高水準の数字を達成し、受注残高が1兆5千634億円と十分な仕事量を確保しています。

配当金は、株主還元方針に従い配当性向30%としております。今期は、2月に決定した200億円の自己株式の取得を完了し、株式数が減少しました。そのため1株当たり配当金は予想からさらに2円増配の38円とする予定です。

連結損益計算書

			【億円】	
	FY2021	FY2022	前期比	
売上高	4,284	6,068	+1,784	+42%
売上総利益	453	667	+213	+47%
利益率	10.6%	11.0%	+0.4pt	
営業利益	206	366	+160	+77%
経常利益	300	505	+205	+68%
親会社株主に帰属する 当期純利益・純損失	△ 355	306	+662	-
1株当たり当期純利益	△ 140.77円	122.28円		
自己資本当期純利益率	△ 8.8%	7.8%		

次に連結損益計算書です。

前期比で大幅な増収増益となりました。

売上高は前期比42%増収の6,068億円、売上総利益は47%増益の667億円、利益率は0.4ポイント上昇して11%でした。

営業利益は販管費の増加を吸収して77%増益の366億円、経常利益は68%増益の505億円、親会社株主に帰属する当期純利益は黒字転換し306億円です。

ROEは7.8%でした。

セグメント情報

		【億円】			
		FY2021 (※)	FY2022	前期比	
総合エンジニアリング	売上高	3,779	5,516	+1,736	+46%
	セグメント利益	171	334	+163	+95%
	利益率	4.5%	6.1%	+1.5pt	
機能材製造	売上高	442	477	+35	+8%
	セグメント利益	72	71	△ 1	△ 2%
	利益率	16.5%	15.0%	△ 1.5pt	
その他	売上高	61	75	+13	+21%
	セグメント利益	10	17	+7	+72%
	利益率	16.8%	23.8%	+7.0pt	
調整額	セグメント利益	△ 47	△ 56	△ 9	-

(※) 第1四半期連結会計期間より、業績管理方法を変更したことに伴い、従来各セグメントに配分していた当社のグループ管理運営費用は、各セグメントに配分しない全社費用として「調整額」に含めております。なお、前期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の算定方法により作成したものを記載しております。

次にセグメント情報です。

総合エンジニアリング事業は前期比で増収増益です。
海外ではカナダ、イラクの大型プロジェクト、国内はライフサイエンス、バイオマス発電案件の進捗が予想通り順調に伸びたことで売上高は前期比1,736億円増収の5,516億円、
セグメント利益は、プロジェクトの着実な遂行による採算改善や円安影響により、前期比163億円増益の334億円でした。
第4四半期にも完工間近のものなど順調に遂行中の複数の案件での採算改善による追加利益計上がありました。

機能材製造事業では、売上高は若干増収の477億円となりましたが利益は横ばいの71億円にとどまりました。

半導体関連などの需要低下に加え、燃料費、材料費の高騰による影響により利益率が低下しました。

その他事業はご覧のとおりです。

セグメント情報

受注の状況（総合エンジニアリング事業）

i) 受注高

【億円】

	FY2021	FY2022
海外	1,430	6,963
国内	1,664	1,276
合計	3,094	8,239

FY2022
主要受注案件

原油・ガス分離設備(サウジアラビア)
VCM・PVC生産能力増強工事(タイ)
ニアショアFLNGプラント(マレーシア)
大型エチレン製造プラント(米国)

次に総合エンジニアリング事業の受注高です。

海外の受注が大きく回復し、6,963億円となりました。

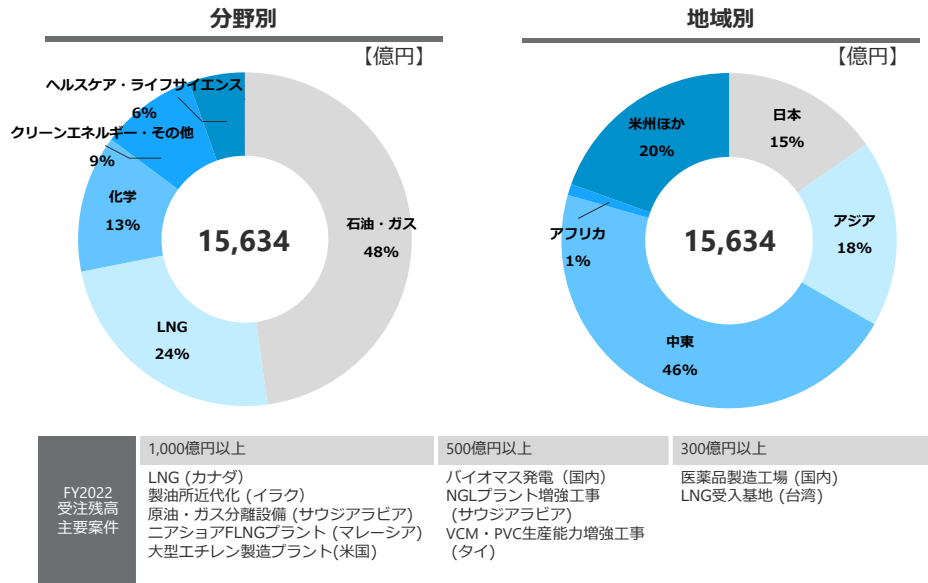
国内は大型の期待案件の投資決定が来期にずれ込んだことなどにより1,276億円にとどまりました。

国内外合計で8,239億円です。

主要な受注案件は、サウジアラビアの原油・ガス分離設備、タイの化学案件、マレーシアのFLNG、そして第4四半期に計上した米国の大型エチレン製造プラントなどが挙げられます。

セグメント情報

ii) 受注残高 (2023年3月末)



次に受注残高です。

受注が8,000億円を超える高水準となったことで、期末の受注残高も1兆5,634億円と期初から約3千億円増加しました。

分野別では石油・ガス関係が48%、LNGが24%

地域別では中東の46%、米州ほかの20%にアジア、日本が続く形となっています。

主要な案件では、1,000億円の案件に今期受注のサウジアラビア、マレーシア、米国の案件が加わっています。

連結財政状態及びキャッシュ・フロー

【億円】			
	2022年3月末	2023年3月末	増減
総資産	6,942	7,131	+188
純資産	3,876	3,979	+103
自己資本比率	55.8%	55.7%	△ 0.1pt

	FY2021	FY2022	前期比
営業 キャッシュ・フロー	193	1,107	+914
投資 キャッシュ・フロー	△ 76	△ 114	△ 37
財務 キャッシュ・フロー	△ 1	△ 612	△ 611
現金及び現金同等物の期末残高	2,880	3,327	+447
JVキャッシュ 当社持分	2,396	1,717	△ 679

次に連結財政状態及びキャッシュ・フローです。

財政状態は期初から大きな動きはありません。
自己資本比率は横ばいの55.7%です。

営業キャッシュ・フローが1,107億円のプラスとなりました。
過去終了プロジェクトの係争終結に伴う債権回収などにより純利益を大きく上回るプラスとなりました。
投資キャッシュ・フローは有形固定資産取得やデジタル関連の投資などにより114億円のマイナス、
財務キャッシュ・フローは有利子負債の返済、自己株式の取得等により612億円のマイナスとなりました。
期末のキャッシュは期初から447億円増加し、3,327億円です。
バランスシートに計上していないジョイントベンチャーのキャッシュの当社持分は、プロジェクト進捗に伴い679億円減少し1,717億円です。



続いて、2023年度の予想について説明します。

2023年度の業績見通し

	【億円】	
	FY2022 実績	FY2023 業績予想
受注高(※)	8,239	8,000
売上高	6,068	8,000
売上総利益	667	680
利益率	11.0%	8.5%
営業利益	366	380
経常利益	505	450
親会社株主に帰属する 当期純利益	306	320
1株当たり配当金	38.0円	40.0円
換算レート(米ドル)	133.53円	133.00円

(※) 総合エンジニアリング事業

- 2022年度受注案件の立ち上がりなどにより2期連続で大幅な増収
- 円安効果はなくなるものの売上総利益、営業利益、当期純利益は増益
- 最終増益により3期連続増配

2023年度の業績見通しです。

総合エンジニアリングの受注高は8,000億円を目標とします。

売上高は総合エンジニアリング事業での大幅な増収を見込み8,000億円、売上総利益は横ばいの680億円、利益率は8.5%です。

営業利益は販管費が横ばいとなることを見込んで380億円、経常利益は450億円、親会社株主に帰属する当期純利益は320億円です。

1株当たり配当金は2円増配の40円を予想します。

この予想に使用した為替レートは1米ドル133円です。

2023年度 セグメント別 業績見通し

		【億円】	
		FY2022 実績	FY2023 業績予想
総合エンジニアリング	売上高	5,516	7,430
	セグメント利益	334	385
	利益率	6.1%	5.2%
機能材製造	売上高	477	500
	セグメント利益	71	57
	利益率	15.0%	11.4%
その他	売上高	75	70
	セグメント利益	17	15
	利益率	23.8%	21.4%
調整額	セグメント利益	△ 56	△ 77

最後にセグメント別の業績見通しについてご説明します。

総合エンジニアリング事業は、22年度受注案件が順調に立ち上がってくる見込みです。前期に続き大幅な増収増益の予想としています。

売上高7,430億円、セグメント利益385億円です。

利益率の低下は、従業員の処遇改善に伴う人件費やDX関連の減価償却や運用費等、固定費増加の影響を織り込んでいます。

機能材製造は、厳しい事業環境により2022年度第4四半期に利益率が低下した流れを受けた予想としております。

売上高は横ばいの500億円、セグメント利益は減益予想となる57億円です。

その他は、ほぼ横ばいとなっております。

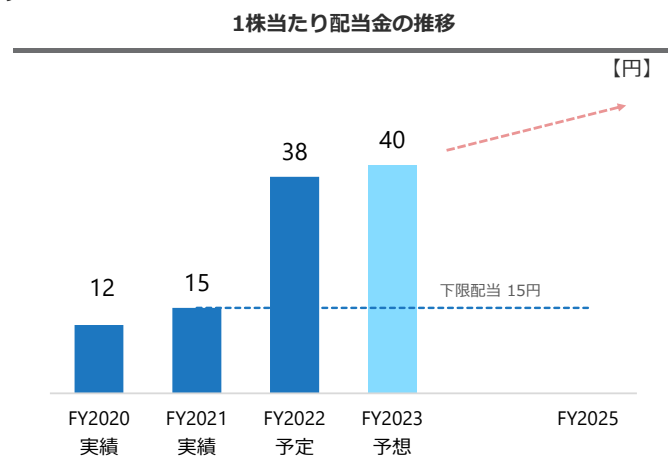
調整額のセグメント利益として21億円のコスト増を見込んでいます。これは人件費や成長戦略に沿った研究開発費等、固定費増加を織り込んだものです。

以上で決算概要の説明を終わります。

参考資料

参考（株主還元方針）

- 剰余金の配当は、連結配当性向30%を目途とし、かつ、1株当たり年間配当額15円を下限とします
- 自己株式取得は、業績見通し及びフリー・キャッシュ・フローの状況を勘案して適宜実施を検討します



参考（地域別売上高、受注高）

売上高

【億円】

	FY2021		FY2022	
日本	1,374	(32.1%)	1,731	(28.5%)
アジア	403	(9.4%)	624	(10.3%)
中東	502	(11.7%)	1,484	(24.5%)
アフリカ	601	(14.0%)	320	(5.3%)
米州ほか	1,402	(32.8%)	1,908	(31.4%)
合計	4,284	(100.0%)	6,068	(100.0%)

受注高（総合エンジニアリング事業）

【億円】

	FY2021		FY2022	
日本	1,664	(53.8%)	1,276	(15.5%)
アジア	678	(21.9%)	2,510	(30.5%)
中東	627	(20.3%)	3,101	(37.6%)
アフリカ	20	(0.7%)	101	(1.2%)
米州ほか	103	(3.3%)	1,250	(15.2%)
合計	3,094	(100.0%)	8,239	(100.0%)

参考（地域別、分野別受注残高）

地域別（総合エンジニアリング）

【億円】

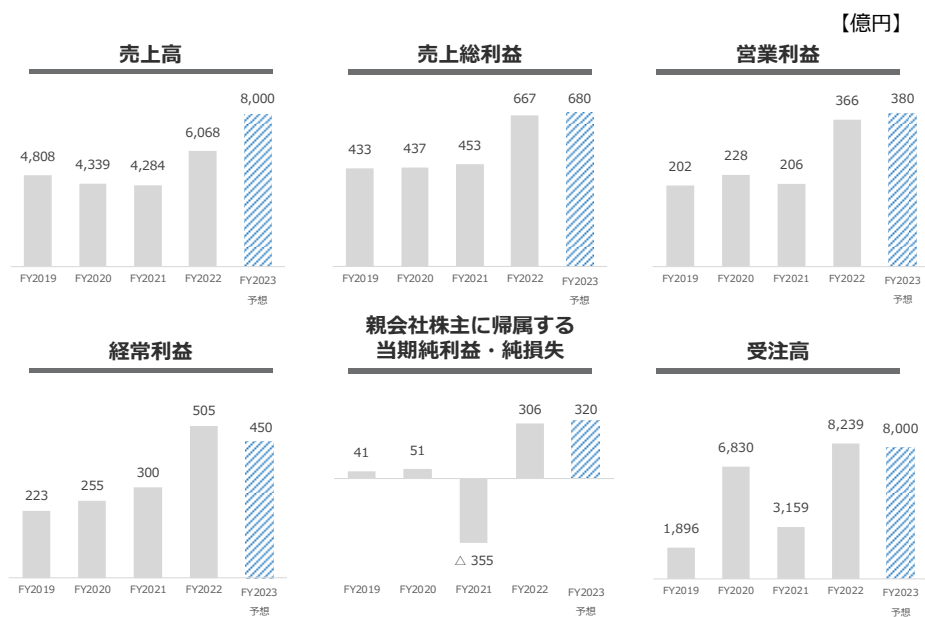
	FY2022	
日本	2,383	(15.2%)
アジア	2,823	(18.1%)
中東	7,205	(46.1%)
アフリカ	169	(1.1%)
米州ほか	3,053	(19.5%)
合計	15,634	(100.0%)

分野別（総合エンジニアリング）

【億円】

	FY2022	
エネルギー・トランジション		
石油・ガス	7,477	(47.8%)
L N G	3,760	(24.1%)
化学	2,080	(13.3%)
クリーンエネルギー・その他	1,461	(9.4%)
ヘルスケア・ライフサイエンス	848	(5.4%)
産業・都市インフラ、その他	6	(0.0%)
合計	15,634	(100.0%)

参考（業績推移）



将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
日揮ホールディングス株式会社
戦略企画オフィス 経営企画ユニット
コーポレートコミュニケーショングループ
Tel : 045-682-8026 Fax : 045-682-1112
E-mail: ir@jgc.com